

高知の授業の未来を創る 資質・能力ベースの授業づくりガイドライン

～変える・つなげる・高める～

本ガイドラインは、第3期高知県教育振興基本計画の基本理念の実現を目指し、学習指導要領の趣旨や県教育委員会発行の「新教育課程を活かす 能力ベースの授業づくり」（平成31年3月）に基づき作成した、授業づくりについての指針です。

各学校では、本ガイドラインを活用し、児童生徒や学校、地域の実態に応じた特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善を図るとともに、児童生徒の学びの質を「変える」「つなげる」「高める」授業づくりを目指しましょう。

【高知県の目指すべき人間像】

- (1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち
- (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材

高知の授業の未来を創る 資質・能力ベースの授業づくりガイドライン ～変える・つなげる・高める～

第1章 高知県が目指す教育

第2章 高知県が目指す授業づくり

第3章 各教科等における授業づくり

各教科等における義務教育9年間で育成を目指す資質・能力の具体化
及び系統化



第2期教育等の振興に関する施策の大綱・第3期高知県教育振興基本計画

日本国憲法・教育基本法・学校教育法・学校教育法施行規則・学習指導要領

第1章 高知県が目指す教育

1 基本理念～目指すべき人間像～

高知県では、第3期高知県教育振興基本計画の基本理念として以下の二つを掲げ、これらの実現に向け、取り組みます。

(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち

グローバル化や情報化、少子・高齢化が急速に進むなど、社会・経済が激しく変化する時代に生まれた子どもたちが、これからの時代を自らの力で力強く生き抜き、自らの夢に向かって羽ばたけるようにするためには、知・徳・体の調和のとれた生きる力を育むことが必要です。

〈知・徳・体の育成すべき力〉

- ◆知：基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲
- ◆徳：社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性
- ◆体：生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣

こうした知・徳・体の調和がとれた、自らの人生を切り拓き主体的に生きる力を、家庭の保護者や地域、学校、市町村教育委員会、県教育委員会などが、それぞれの役割や責任を意識しながら力を合わせ、社会全体で子どもたちに身に付けさせていかなければなりません。

(2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材の育成

2 高知らしい教育課程

教育課程は、学校の教育活動の中核として最も重要な役割を担うものであり、その意義などについては、関係法令等でも明確に示されています。高知県では、第3期高知県教育振興基本計画の基本理念を実現するために本ガイドラインを活用し、「学びを変える」「学びをつなげる」「学びを高める」を意識した、高知県らしい教育課程の編成・実施・評価・改善を推進します。

3 「社会に関かれた教育課程」の実現に向けて

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という理念を、学校と社会で共有することが求められています。そのため、各学校で本ガイドラインを活用し、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けさせるのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働により「社会に関かれた教育課程」の実現を図っていきます。

第2章 高知県が目指す授業づくり

1 「学びを変える」「学びをつなげる」「学びを高める」教育課程

(1) 「学びを変える」教育課程とは

これからの時代に求められる教育を実現していくためには、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を、学校と社会とが共有することが大切です。そのためには、学校は目指すべき教育の在り方を家庭や地域と共有し、連携、協働しながら教育活動を充実させていく「社会に開かれた教育課程」を実現する必要があります。各学校においては、以下の点に留意しながら、教育課程を編成、実施、評価、改善を図る一連のPDCAサイクルを常に回していきましょう。

- 法律及び学習指導要領に定められた目的や目標を前提とするものであること。
- 教育委員会の規則、方針に従っていること。
- 学校として育成を目指す資質・能力が明確であること。
- 学校や地域の実態等に即したものであること。
- 教育的価値が高く、継続的な実践が可能なものであること。
- 評価が可能な具体性を有すること。

「小学校・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」 文部科学省 より

(2) 「学びをつなげる」教育課程とは

これからの変化の激しい社会を生き抜くためには、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していくための資質・能力が求められています。このような力を、児童生徒一人一人に育てていくためには、どのような資質・能力の育成を目指すのかを、三つの柱（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）を踏まえながら明確にし、教育課程全体を見渡して育ていくことが重要です。そのため、各学校では、児童生徒や地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を、学年間や教科間、さらには家庭や地域とも「つなげ」、組み立てていく必要があります。

また、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力などのように、全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力を育成するためには、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点に立って教育課程を編成することも必要です。

(3) 「学びを高める」教育課程とは

「学びを高める」教育課程には、主体的・対話的で深い学びの実現と、カリキュラム・マネジメントの一環として学習指導と学習評価の一体化を図ることが必要です。

① 主体的・対話的で深い学びの実現

子どもたちに未来を切り拓くことのできる資質・能力を育てるためには、各教科等で行われる学習活動を更に改善・充実させ、授業の質を高めていくことが求められます。その際、学びの質に着目し、授業改善の取組を活性化させる視点が「主体的・対話的で深い学び」です。特に「深い学び」の実現

には、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることが鍵となります。

こうした学習の過程を重視し、具体的な学習内容、単元や題材の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにしていくことが、「学びを高める」教育課程の実現に繋がります。

②カリキュラム・マネジメントの一環としての学習指導と学習評価

「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図りながら、子ども自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためには、学習評価の在り方は重要であり、学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが大切です。

また、各学校の学習指導（授業）は、学習指導要領に則り、児童生徒や地域の実態を踏まえて編成された教育課程の下で行われるため、教育活動の質を向上させるには、教育課程を組織的かつ計画的（P）に実施（D）・評価（C）・改善（A）していくことが重要となります。そのPDCA サイクルが常に回るようカリキュラム・マネジメントしていくことで、「学びを高める」教育課程の実現を図ります。

2 「学びを変える」「学びをつなげる」「学びを高める」カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントとは、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら以下の三つの側面から組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくことです。

- ・児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。
- ・教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと。
- ・教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。

「小学校・中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編」 文部科学省 より

高知県ではカリキュラム・マネジメントについて、上の三つの側面を踏まえ、「学びを変える」「学びをつなげる」「学びを高める」の三つの視点で捉え直しています。

3 「学びを変える」「学びをつなげる」「学びを高める」授業づくり

高知県が目指す授業づくりを、「学びを変える」「学びをつなげる」「学びを高める」の三つの視点で進めていきます。

(1) 「学びを変える」授業づくりとは ～資質・能力ベースの学びを創る～

資質・能力ベースの授業をつくるために、これまでの授業づくりのよさを継承しつつ、単元デザインや題材構成、指導内容・指導方法の工夫・改善など、学習指導と学習評価の一体化を図りながら、

各教科等における資質・能力を確実に育成していく授業づくりを充実させていきましょう。

(2)「学びをつなげる」授業づくりとは～見方・考え方を鍛える学びを創る～

「義務教育を終える段階で身に付けておくべき力は何か」という観点から、義務教育9年間の連続性のある学びの実現に向けて、見方・考え方の成長を支える授業づくりを学習指導と学習評価の一体化を図りながら充実させていきましょう。

(3)「学びを高める」授業づくりとは～主体的・対話的で深い学びの実現を目指す～

生涯にわたって続く「学び」という営みの本質を捉えながら、教師は教えることにしっかりと関わり、子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方や授業づくりを絶え間なく考え、学習指導と学習評価の一体化を図り、授業の工夫・改善を重ねていきながら充実させていきましょう。



